

「ヒヤリ・ハット運動」から「気づき報告運動」へ

(「ヒヤリハット運動」をより有効なものとするための方策に関する一考察)

労働安全コンサルタント 湯田 亨

1. 「ヒヤリ・ハット」報告がなぜ上がってこないのか？

作業員から自発的に「ヒヤリハット報告」が上がってきにくい理由は明確である。

- ・様式が複雑である
- ・文字を記入しなければならない
- ・自分の仕事を一時中断しなければならない
- ・報告を上げると「嫌な顔」をされる



メンドクサイ

コミュニケーションエラー

2. では、どうすれば良いか

至極単純である。上記原因を排除すればよい！

イ) 作業員は、口頭での報告とする。

ロ) 管理者が「作業員から気安く声を掛けられる雰囲気を積極的に作る」。

(ヒヤリ・ハット報告が上がってこない企業において、管理者の「プライド(≒傲慢さ)が強すぎる」ケースをよく見かける。コミュニケーションエラーを作り出している主因が管理者にあるとみられるケースが多い。)

ハ) 管理者は、作業員からの口頭報告を受け即時対処をおこなった後、仕事だと思って書類をまとめる。

3. 「ヒヤリ・ハット運動」の良かった点、悪かった点！

どうか、ゼロベースで冷静にお考えいただきたい。

- ・これまでの「ヒヤリ・ハット運動」の良かった点は、【報告】することであった。
- ・これまでの「ヒヤリ・ハット運動」の悪かった点は、【形式主義】や【押し付け安全】【コミュニケーションエラー】等に起因する形骸化であった。

良い点を伸ばし、悪い点を改善すれば【安全レベル】等を改善することができる！

4. 「ヒヤリ・ハット運動」から「気づき報告運動」へ

自分が安全衛生面で「ヒヤッとしたり」「ハットしたり」ことを報告する。ということが「ヒヤリ・ハット運動」のやり方である。

安全衛生面だけの気づきを報告するだけでは、モッタイナイ!品質・環境・苦情・工程面等、全ての分野に対し気づいたことを「報告する」活動に、「ヒヤリ・ハット運動」を改善していくことをご提案したい。

そもそも、作業員のちょっとした「アレっ？」という気づきの報告が無かったことが大災害や手戻りに繋がり、企業業績を悪化させている例は数知れない。

例えば、令和2年7月30日に郡山で起きたガス爆発事故について、事故後「前の日ガスくさかった」という報告もなされているが、事故発生までに「ガスくさい」という報告はなく、被災者は「ガス」のことが念頭になかったため照明のスイッチを入れてしまい、火花が、充満していたプロパンガスに引火爆発したと思われる。

上記事故において、「前の日ガスくさかった」と気づいた作業員さんが即座にその【気づき報告】さえしておけば、責任を問われることはないはずである。

作業員レベルの判断では「たいしたことではない！」ことであっても、冷静な管理者がその報告を受けた場合「大変だー！」となる事態も結構多いものである。

作業員の皆さん、「気づいたら、口頭でかまわないので、すぐ報告しよう！」

管理者の皆さん、「報告を受けたら、すぐ対処して、仕事だと思っ

5. 書式について

これまでの「ヒヤリ・ハット」報告に【対処者氏名】【どのような対処を行ったか】の2項目を追加すればよい。

(以 上)